

ま、歯みかぎ



置由はよくわからないので、 僕が赤ちゃんの頃の話を してみようと思います。

あそび道具として歯ブラシをもたせる

歯が最初にはえたのは、フヶ月のときです。 そのころのほくは、手にふれるものがかすらしくて、 なんでも口に入れて降んでいました。

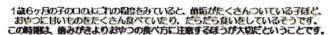
ある日、お母さんが慎プラシを持たせてくれました。 口に入れてみだら気にいってしまって、毎日菓プランで遊んでいました

> それで値ブラシを口のなかに入れることに慣れたし、 苗ブラシを持つ習慣がついたのです。



歯のみがき方を教えてもらっちゃおう!

1歳6ヶ月のとき、健康診断で、歯医者の先生の表話を聞きました。



それがら、2歳までにてきるむし傷のほとんどは、上の前脇の間、扇ぐきとのさかいめ にできるそうなので、先生はよく注意をしてみがいてほしい、とおっしゃっていました。



そのころぼくも、よくお母さんに噛みがきをしてもらったけれど、 ロをつぐんだりして、なかなかいうことをききませんでした。 でも、お母さんはぼくの顔をひざの上にのせてねかせながら、 にこにこと話しかけてくれたり、歌をうたってくれました。

そして、毎日かしすつでもつづけていてから、おおさんはほくの裏をみがくのが上手になった のです。それに、最が聞いときはかんだんに終わるけど、優勝のいいときは、ゆっくり ていないにみがいてくれるとか、僕の気持ちをすごくよく考えてくれていました。

だからか、だんだん歯みがきか好きになったみたいです。



甘いおかしをたくさん食べた日は

2億のころ、ほくは何でも自分でしたくって、傷みがきち ほ分でする」っていいました。 お母さんは母った顔をしていたけいと、ほくがあきるまで、 値かがきをやらせてくれました。 そしてほくがあきてくると、「きかいしてったかな」といって、みがすていないとこうをかいくくれたのでした。

よそのうちにいって、甘いおやつを食べた日には、お母さんは、 とくに届入りに娘をみがいてくれました。 これを (とりもとしみがき) といいます。





体で歯みがきをおぼえさせる

2歳をすぎたころに、第二乳臼歯という一番むし歯になりやすい歯がはえてきました。

そのころ僕に関プランを特定せて、その上からお母さんが手をそえて、 一緒にみがいてくれたので、ほくはそこの部分をみかけばいいんだ っていうことが、からだでわかってきました。

この方法で上の奥路をみがくのは、4歳ぐらいまでむずかしいのです。 これを《にきらせみがき》っていいます。



3歳の誕生日まで、ぼくは、なせ飯をみかかなくちゃいけないのかかりませんでした。

ある日、お思さんが他が他をわがくときに、水のはいったコップを置いて、 その水で他プランを吹いむからわがいてくれました。

そうすると、おおがどんどんよこれてくるのがよくわかるのです。 「お口のなかがこんなによこれているから、おおがこんなになっちゃうの。 むし歯のはいきんがこんなにいるのよ」 ってお母さんが教えてくれました。

こんなにきたもいかかつのなかにいたら、はなかまで好くなりそうだから聞きさいいにいなくちゃって、はじめて思いました。



だから歯みがき好きになったの

だから、ぼくとっても歯みがきが大好き。

これからも頑張って歯みかきをします。

だって、この頃、歯をみがかないとお口のなかが 気持ち悪いたもの。

